


愛知医科大学病院 いたみセンター
西原真理 (にしはら まこと)

HPVワクチン接種後にみられる 様々な症状とその対応について — 精神医学的な診方も含めて —



2023年11月25日 第2回HPV予防接種相談支援事業講演会

COI開示

発表者名:西原真理

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。


2

Multidisciplinary Pain Center@AMU

一番最初にお伝えしておきたいこと！

HPVワクチン接種後に発生した複雑な症状については
完全に原因が明らかにされているわけではありません

精神症状、心理的な問題だけで症状が出ている
「心の問題です」




3

HPVワクチン接種についてのこれまで...

HPVワクチンに関するこれまでの経緯と課題

【子宮頸がんについて】

- 日本で年間約1.1万人が罹患、約2,900人が死亡。
- 40歳までの女性でがん死亡の第2位。
- ほとんどの子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因。



ヒトパピローマウイルス

【HPVワクチンについて】

- HPVワクチンは、HPVへの感染を防ぐことで、子宮頸がんの罹患を予防。
- HPVワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める2つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐ。
- ※ 子宮頸がんの予防に当たっては、併せてがん検診を受診することが重要。

【海外の状況】

- 世界保健機関（WHO）が接種を推奨。
- 米、英、独、仏等の先進各国において公的接種として位置づけられている。

| | |
|------------------------|--|
| 平成22年11月26日～平成25年3月31日 | 平成22、23年度補正予算により、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業（基金）を実施 |
| 平成25年4月1日 | 予防接種法の一部を改正する法律が施行され、HPVワクチンの定期接種が開始された |
| ⇒ | 以降、疼痛又は運動障害を中心とした多様な症状が報告され、マスク等で多く報道された |
| 平成25年6月14日 | 厚生労働省の審議会※で、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」とされ、積極的勧奨差し控え（厚生労働省健康局長通知） |
| ⇒ | 以降、①HPVワクチンのリスク（安全性）とベネフィット（有効性）を整理 ②HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援をどう進めていくのか ③HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供をどう進めていくのか 審議会において検討 |

厚生労働省資料 令和4年4月からのHPVワクチンの接種について

HPVワクチン接種についてのこれまで...

HPVワクチンの安全性・有効性の整理に関するこれまでの対応

| | |
|------------------------------|---|
| 平成25年12月 | 審議会で、国内外におけるリスク（安全性）とベネフィット（有効性）に関する情報を整理 |
| 平成26年1月・7月 | 審議会で、HPVワクチン接種後に生じた「多様な症状」の病態と、因果関係について評価 →病態について「機能的な身体症状*」と定義 ※ 慢性的な疼痛等の身体症状はあるが、医学的検査で症状に見合う異常が認められない病態 |
| 審議会で、継続的に副反応疑い報告の発生状況をモニタリング | |
| 平成28年12月・平成29年4月 | 厚生労働科学研究 祖父江班による全国疫学調査を実施し、その結果を審議会に報告 →全国の医療機関からサンプリングした18,302診療科に対し「多様な症状」を有する患者の有無を調査、患者ありと回答した508診療科に対して個人表を送付し臨床疫学（ワクチン接種歴を含む）について調査 →HPVワクチン接種歴のない育ちにおいても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する者が、一定数存在 |
| 平成29年11月 | 審議会で、国内外におけるリスク（安全性）とベネフィット（有効性）に関するエビデンスを改めて整理し、評価 →平成26年1月の合同会議における検討以降、HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とHPVワクチンとの因果関係を示唆する新しい質の高いエビデンスは報告されていない →ワクチンの安全性及び有効性に関する最新の知見を情報提供していく |

厚生労働省資料 令和4年4月からのHPVワクチンの接種について

ISRR (予防接種ストレス関連反応)について



予防接種ストレス関連反応を起こしやすい人の特徴

- 主に10歳代、女性に多い
- これまでに血管迷走神経反射による失神を起こしたことがある
- これまでに注射した後に不快な経験をしたことがある（痛みや血管迷走神経反射による失神など）
- 注射を怖がる
- 不安障害や発達障害（特に自閉スペクトラム症）がある

日本小児科学会作成パンフレットより
Multidisciplinary Pain Center@AMU

解離症群 (Dissociative Disorders)

解離症：感覚、知覚、感情、思考、記憶、身体運動の制御、自己同一性、行動のうち一つ以上の正常な統合が**不随意に破綻**したり、不連続になったりすることによって特徴づけられる。また**日あるいは時間単位で変動**する。

(何らかの**疾患**、中枢神経作用物質、医薬品の影響や離脱症状によるものではない)

解離性神経学的症状症 (Dissociative neurological symptom disorders)

- 視覚障害を伴う：盲目、視野狭窄、複視、幻視
- 聴覚障害を伴う：聴覚喪失、幻聴
- 回転性、非回転性めまいを伴う：静止時の回転、めまいの感覚
- 他の感覚障害を伴う：麻痺、締め付けられる感覚、チクチクする、ほてり、痛みなど
- 非てんかん性発作を伴う：発作やけいれんの症候的表出
- 発話障害を伴う：構語障害、発声障害、構音障害
- 麻痺または脱力を伴う：身体部分を意図的に動かしたり、運動を協調したりすることの困難
- 歩行障害を伴う：歩く能力や歩き方に関する症状（立てないなど）
- 運動障害を伴う：舞蹈病、ミオクローヌス、振戦、ジストニア、顔面けいれん、パーキンソン症状、ジスキネジア
- 認知症状を伴う：記憶、言語などの認知能力における障害



Multidisciplinary Pain Center@AMU

HPVワクチン接種後の症状について

問. HPVワクチン接種後に副反応はありますか？

HPVワクチン接種後に見られる主な副反応として、発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、恐怖、興奮などをきっかけとした失神などが挙げられます。

また、ワクチン接種後に見られる副反応が疑われる症状については、接種との因果関係を問わず収集しており、定期的に専門家が分析・評価しています。その中には、稀に重い症状の報告もあり、具体的には以下のとおりとなっています。

一般的な副反応

| 頻度 | サーバリックス* | ガーダシル* |
|---------|--------------------------------------|-------------------------|
| 10%以上 | 痛み、注射部位の痛み・赤み・腫れ、腰痛、筋肉痛、関節痛、頭痛、疲労 など | 注射部位の痛み・赤み・腫れ |
| 1～10%未満 | じんま疹、めまい、発熱 など | 注射部位の痛み・出血・不快感、頭痛、発熱 など |
| 1%未満 | 注射部位の知覚異常、しびれ感、全身の脱力 | 手足の痛み、腰痛 など |
| 頻度不明 | 手足の痛み、失神、 など | 疲労感、失神、筋肉痛、関節痛 など |

(2021年12月時点の添付文書に基づく)

稀な副反応

| 病気の名称 | 主な症状 | 報告頻度※ |
|-------------------|------------------------------|------------|
| アナフィラキシー | 呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー | 約96万接種に1回 |
| ギラン・バレー症候群 | 両手・足の力が入りにくきなどを症状とする末梢神経の病気 | 約430万接種に1回 |
| 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) | 頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気 | 約430万接種に1回 |
| 複合性局所疼痛症候群 (CRPS) | 外傷をきっかけとして慢性的な痛みを生ずる原因不明の病気 | 約860万接種に1回 |

(※2013年3月までの報告のうちワクチンとの関係が否定できないとされた報告頻度)

HPVワクチンに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html

Multidisciplinary Pain Center@AMU

HPVワクチン接種後の症状について

問. HPVワクチン接種後に報告されている「多様な症状」はどのようなものですか？

HPVワクチン接種後に、**広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動**（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）等を中心とする「多様な症状」が起きたことが副反応疑い報告により報告されています。

この症状は、何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に合致する異常所見が見つからない状態である「**機能性身体症状**」であることが考えられています。症状としては、

- ①知覚に関する症状（頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏など）
- ②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動など）
- ③自律神経等に関する症状（倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など）
- ④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など）

など様々な症状が報告されています。

HPVワクチンに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html

Multidisciplinary Pain Center@AMU

9

HPVワクチン接種後の症状について

なお、「HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安等が**機能性身体症状**を起こすきっかけとなったことは否定できないが、**接種後1か月以上経過してから発症**している人は、接種との因果関係を疑う根拠に乏しい」と専門家により評価されています。

また、HPVワクチンの接種歴のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在したことが明らかとなっています。

このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「**ワクチン接種との因果関係がある**」という証明はされていません。



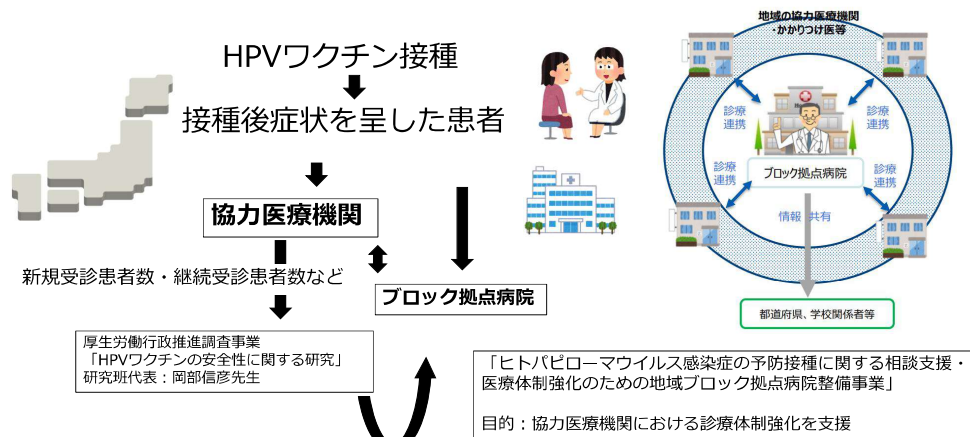
HPVワクチンに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html

Multidisciplinary Pain Center@AMU

10

副反応が起こったときの相談支援体制・医療体制



https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/medical_institution/index.html

Multidisciplinary Pain Center@AMU

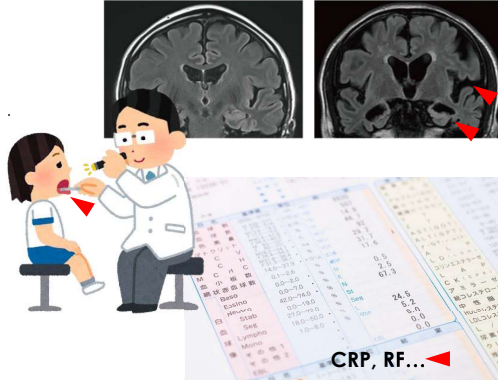
11

器質性障害と機能性障害



器質性疾患

- ▶ 器質的疾患は、同じ病態のときに、**特定の場所に特定の病変**を見出せる
- ▶ 客観的な診察所見、検査によって示されることから、誰から見ても「同じ疾患」として理解しやすい

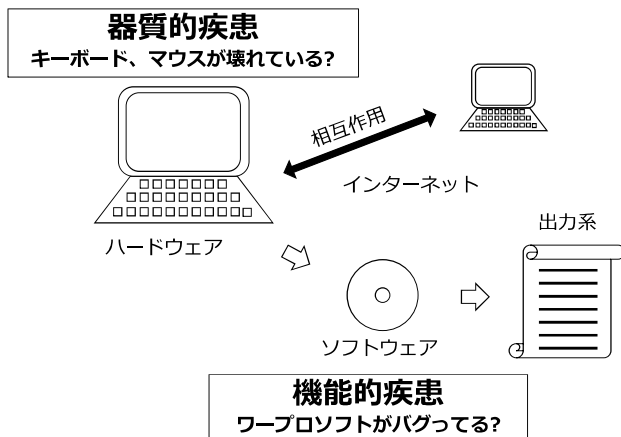


機能性疾患 ≠ 「心因性疾患」

- ▶ 機能的な疾患とは、症状（の訴え）以外に**診察所見や検査での異常が示されない**
- ▶ 訴えや病歴から見立てていく必要がある
- ▶ 客観的な所見がないため、周りから理解されにくいこともある

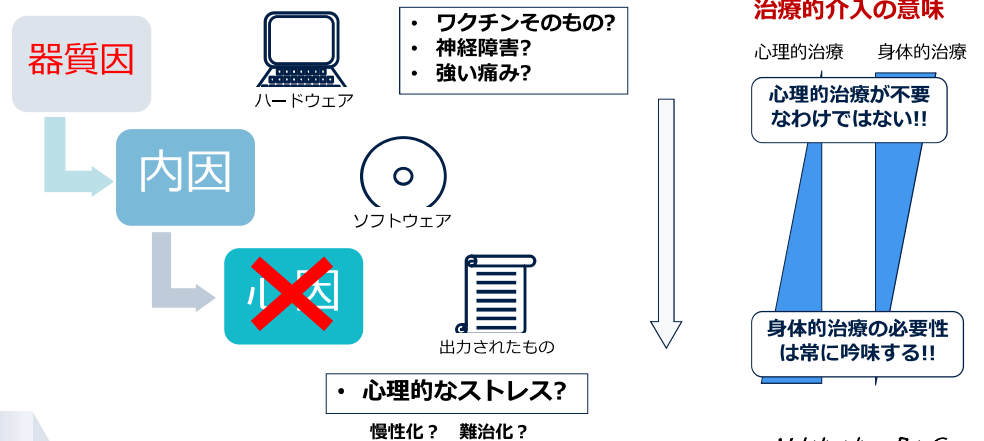


パソコンを例に例えと?



(兼本浩祐：心はどこまで 脳ののだろうか 2011)

精神医学的に考えるワクチン接種後の症状の「器質因・内因・心因」



Multidisciplinary Pain Center@AMU

精神科とのやり取り...

持続する痛みを訴えています。
種々の検査をしましたが、
痛みを説明できる大きな異常は見
られません。

精神的なものによる痛みだと考えま
すが、診察をお願いします。



診察させていただきました。
精神的には問題ありません。

身体的な治療を優先して頂ければと
考えます。

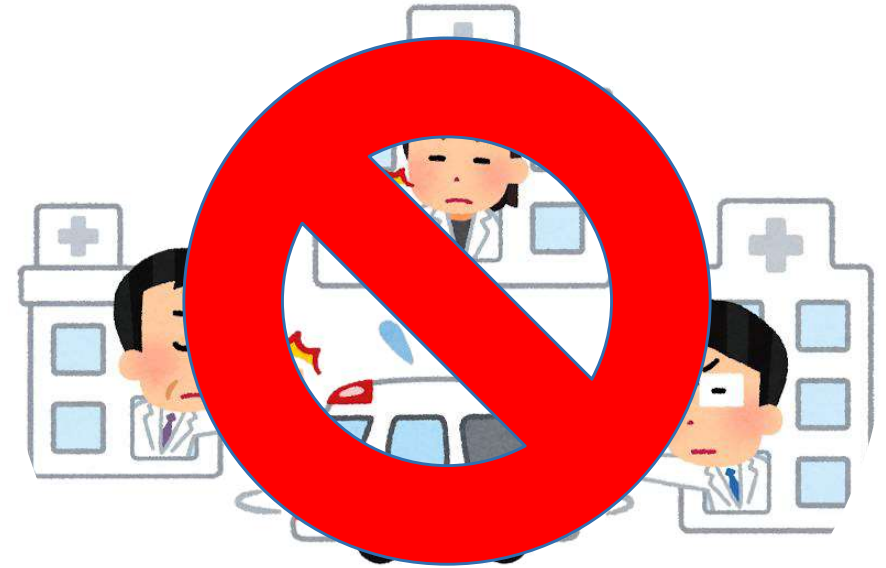
Medically unexplained
医学的（身体）に説明がつかない

Psychiatrically unexplained
精神的に説明がつかない

(丸田俊彦)

患者さんが狭間で困らない形作りを

Multidisciplinary Pain Center@AMU



面接・問診のポイント 接種前



本人の
意思？

何を
理解？

重ねて
尋ねる
必要

これでは
不十分

HPVワクチン(ガーダシル®) 接種予診票

※太い線で囲まれたところを記入するか○で囲んでください。

| 接種回数 | 1回目(/) | 2回目(/) | 3回目(/) | 診察前の体温 | 度 | 分 |
|--|----------|----------|----------|--------|-----|----------|
| 住所 | 〒 | | | 電話番号 | () | - |
| (フリガナ) 接種を受ける人の氏名 | 氏名 | | | 生年月日 | 昭和 | 年 月 日生 |
| 保護者の氏名 (接種を受ける人が未成年の場合) | | | | 平成 | | (満 歳 ヵ月) |
| 質問事項 | | | | 回答欄 | | 医師記入欄 |
| 今日受ける予防接種についての説明文(HPVワクチン(ガーダシル®)を接種される方へ)を読み、理解しましたか。 | | | | はい | いいえ | |
| 今日、体に具合の悪いところがありますか。 ○具体的な症状() | | | | はい | いいえ | |
| 最近1ヵ月以内に再発にかかりましたか。 ○具体的な病名() | | | | はい | いいえ | |
| 最近1ヵ月以内に予防接種を受けましたか。 ○予防接種名() | | | | はい | いいえ | |
| これまでに他のHPVワクチンの接種を受けたことがありますか。 ○接種回数と時期(日、 1回目 / 2回目 / 3回目 /) | | | | はい | いいえ | |
| 今までに特別な病気(先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液疾患、免疫不全、その他の病気)にかかり医師の診察を受けていますか。 ○具体的な病名() ○主治医のコメント() | | | | はい | いいえ | |
| ひきつけ(けいれん)をおこしたことがありますか。()歳頃 | | | | はい | いいえ | |
| ○その時に熱は出ましたか。 | | | | はい | いいえ | |
| 薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことはありますか。 ○薬・食品名() | | | | はい | いいえ | |
| 近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか。 | | | | はい | いいえ | |
| これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。 ○予防接種名() | | | | はい | いいえ | |
| 近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった方はいますか。 | | | | はい | いいえ | |
| 現在、妊娠している、または妊娠している可能性(生理が遅れているなど)はありますか。 | | | | はい | いいえ | |
| 現在、授乳をしていますか。 | | | | はい | いいえ | |
| 今日の予防接種についての質問がありますか。 | | | | はい | いいえ | |

「安心して接種していただくためにお聞きしますね。何か聞いておきたいこ

と、不安に感じることはありませんか」と必ず質問をする。

また、接種される本人が「ないです」と返事をしたとしても、**不安そうな表情やそぶり**

が見受けられた場合、追加で確認を行う

接種前のリスク軽減のため 安心して接種を受けるためのチェックポイント

本人に
話しかけ
ながら
確認

- 今日受ける予防接種についての説明文やリーフレットを読み、次のことを理解しましたか
① このワクチンは子宮頸がんを予防する効果が確認されていること (はい、いいえ)
② 数日間、注射部位の痛みや腫れ、赤み、発熱などがみられることがあること (はい、いいえ)
③ 体の痛みやしびれ、だるさなどの異常が続く時は、接種医師などに相談できること (はい、いいえ)
- これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか (はい、いいえ)
はい、の場合 予防接種名 (ガーダシル1回目)
症状を詳しく書いてください
(痛みで3日間腕が上がらず、その後も長く頭痛や体の痛み、しびれが続いた)
- 今日の予防接種について心配なことや質問がありますか (はい、いいえ)
はい、の場合は詳しく書いてください
(SNSで、副反応が怖いから打たないほうがいいと聞いた)

何れにせよ、**本人の理解と納得**が大前提であるため少しでも相反する返答や様子などが見受けられた場合、強引に接種を勧めるのではなく、当日に納得できていない様子であれば、

◆説明や確認のため接種日を改める

◆重大な既往があるなど接種が不適切と判断すれば中止する

などの柔軟な対応も考慮に入れる。

面接・問診のポイント

症状を呈した患者とどのように接するか



多様な症状の出現時に対応にあたる医師の診察姿勢と役割

- ◆ 持続的な痛みや倦怠感などの多様な症状が生じると、時に日常生活が困難となった場合、保護者も様々な情報を見て動揺し、親として接種を勧めた責任を感じて、接種を後悔していることが多い。
- ◆ 診療では、**医療側の対応自体も社会的リスク因子**となり、以後の患者の経過に大きな影響を与えることになる。

①真摯かつ優しい態度で、患者自身の話を中心に情報を整理する

- ◆ 症状や状態については、**まず、患者本人から話を聞き**、次に、家族から聞くようにすることが望ましい（「最初にご本人からうかがい、次に、ご家族からうかがいますね。」など）。
- ◆ 本人が、言葉に詰まったり、話すことを躊躇したりしている場合は、家族への問診も並行して行う。
出来る限りカルテには、患者と家族の発言を区別して記載する
- ◆ 初診時の問診は、患者と家族一緒に同じ部屋で行う。継続して通院となった場合は、患者と家族に個別に面接することも試みるとよい。

- ・本人が親の前ではしゃべらない
- ・親が本人の話を遮る
- ・本人が親に視線を向けると親はそっぽを向く
- ・本人が親の顔色を気にする、あるいは一切見ない

などの様子についても留意し、**必要に応じて記録**する。

②実際に何に困っているか、一日の生活内容を、時間をたどって詳細に聞く

- ▶ 落ち着いて話せるように長めの診療時間を確保することが望ましい。
- ▶ 右項目を問診し、それぞれの性状と程度、経過を丁寧に聴取する。朝起きてから翌朝までの**標準的な一日の様子**を叙述してもらい、どのような生活上の支障が出ているか、**問題点**を整理する。患者の表現もそのまま記載し、カルテの記述では患者の理解や解釈が反映されるようにする。

- ▶ どの部位に痛みが生じているのか
- ▶ 倦怠感はあるのか
- ▶ 運動障害はあるのか
- ▶ 記憶など認知機能の異常はあるのか
- ▶ その他の体調の変化等の症状はあるのか

②実際に何に困っているか、一日の生活内容を、時間をたどって詳細に聞く

- ▶ その際「**言えない (=言語化できない)**」から**こそ身体化症状が出ている子供 (若者)**がいることも念頭に置いて、状況を具体的に確認する。家族構成や学校など所属環境も確認する。身体面だけでなく生活面・心理・社会的な側面も可能な範囲その影響についても検討する。

- ▶ 食事、睡眠はとれているか
- ▶ 気分の落ち込みはあるか、楽しみにしていることはあるか
- ▶ 社会参加の状況はどうか（例えば学校、習い事には行けているか、友人と遊んだり、外出したりする機会はあるか）

診断の考え方とその伝え方



診断の考え方とその伝え方

- ① **単回の診察**で断定的な診断を行い、**患者・家族に告知することは基本的に避ける。**
- ② 患者の訴える症状とその経過、診察所見、検査所見、他の専門医の意見、心理社会的要因からの修飾を総合的に考え、「患者が訴える多様な身体症状とその経過が、一般的身体疾患や物質の直接的作用、注射行為によって説明可能かどうか」を判断する
- ③ 特に患者・家族は早期の診断を希望すると思われるが、**Red Flag**（重大な器質的疾患）やその他の疾患（膠原病や運動器疾患など）がないことを比較的早期に判断する必要がある一方で、それがなければ不安にさせず時間をかけながら、**関係性を構築**する。

Multidisciplinary Pain Center@AMU

診断の考え方とその伝え方



④病態の説明が難しい場合や**病態が一つの原因では説明困難と判断する場合には、病名を付けることに固執せず**、何回か受診した段階（一般的には1か月程度）で器質的な**重篤な病気ではない**ことを説明する。
その際、症状や不安が強くないケースについては、接種時の体調など様々な要因が関連して多様な症状が生じたりすることがあるが、対症療法で、症状の改善が期待できることが多いことを説明する。

例：

- ・画像診断でわからないような微小な病変でも痛みなどの強い症状は引き起こされることがあること
- ・器質的に大きな病態でないことは歓迎すべきことであること
- ・ただし、画像診断などにおいてはフォローしていくことで明らかにされることもあるので症状によっては経時的な検査が必要となることなど

Multidisciplinary Pain Center@AMU



伝え方の例

症状が非常に苦しいのはわかるが、今の医学では明確な原因はみつからない。

必要な診察や検査は終わって、治療しなければも命に関わるような病変がないことは間違いなく言える。

今後、何か体の異常がでてくる可能性や、こういう体の症状が環境のストレスなどによって起こることもあることを考えて、しばらく通って、経過をみせてほしい。

その間に必要な検査などあればするようにしたい。

本人・家族の思いに寄り添い、
継続的な診療を

一番最後にお伝えしておきたいこと！

HPVワクチン接種後に発生した複雑な症状については
完全に原因が明らかにされているわけではありません

精神症状、心理的な問題だけで症状が出ているという考えを避け、
バランス重視の診療を

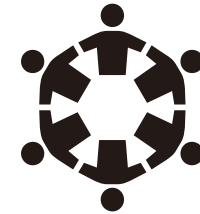
シュバイツァー博士

Pain is a more terrible load of mankind than even death itself.
痛みは死そのものよりも恐ろしい暴君である



33

ご清聴ありがとうございました



HPVワクチン接種後の症状が、

HPVワクチンが原因でおこっているのかどうかはさておき、

困っている人がいるのは間違いありません

34